

東日本大震災 緊急復興支援24カ月活動レポート



寄り添うことの大切さ。

東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

ワールド・ビジョン・ジャパンはこの2年間、組織としての総力を結集し、被災した方々の困難をともに担わせていただきたいという思いで、活動してきました。成果をあげられたことも多くある一方で、足りないところがあったことも自覚しています。

そんな私たちの支援に対して語られた、南三陸町の漁師さんの言葉が忘れられません。

「ワールド・ビジョン・ジャパンが来てくれなかったら、海が怖いままでもしなかっただろう。ワールド・ビジョン・ジャパンが船を支援する、と言ったから海に出てみようかという気になった。何かしなければ、何かはできる、という気になって、生きる意欲が出てきた。前に進む最初の一步を踏み出させてくれた」

震災支援を通して、苦難の中にいる方の側にともに立ち、寄り添うことの大切さを、改めて学びました。支援活動を募金で支えてくださった皆さま、私たちを受け入れ、ともに歩んでくださった宮城県、岩手県、福島県の方々に心から感謝申し上げます。

今後は、被災した地域に根付いた活動を行う地元NPOの育成支援と、子どもたち

への奨学金事業を継続し、子どもたちが豊かなのちを生きられる社会の実現を目指していきます。

今後とも活動を見守っていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長 片山 信彦



岩手県宮古市の子どもたちと

皆さまの支援で生まれた、たくさんの笑顔。



「学校にソーラーパネルがついて、
停電しても電気がつくから、
前より安心して暮らせると思う」



「南三陸町は魚がたくさん獲れる町です。
震災の後は魚が獲れないこともあったけど、
**魚が戻って来てくれていて
うれしかったです**」

「給食は、パンと牛乳だけだと思ってた。
ごはんもおかずも出るんだ!」



「前の学童よりも
広がってうれしい」



「**給食はおいしい!**
4月になってから、一度も残してないよ」



「(福島県)浪江町にいた時、同じ小学校に通ってた。
最後に会ったのは避難所。**また会えてうれしい**」

「ここ(チャイルド・フレンドリー・スペース)では、
友だちに会えるからうれしい。
勉強も、ここが一番できる」



「今度は、**私たちが誰かを
支えられる存在になりたい**と思います」



宮城県からのメッセージ 早く復興できるように、私たちも頑張ります。

「まちづくりプロジェクト」には、「自分の故郷が早く元通りになってほしい」という思いや、子どもたちのことも考えて、「自分たちが頑張っていかない」という強い意志をもって参加しました。これから南三陸町には、子どもが笑ってくれたり、皆が笑顔でいられる町、そして前の志津川の雰囲気大好きなので、元通りの町に復興してほしいと思います。 南三陸町ボランティアサークルぶらんこ会長 佐藤瑤子さん(高2)



岩手県からのメッセージ 非常時の備えができ、感謝しています。

学校は災害発生時の避難所に指定されているため、太陽光発電システムや備蓄物資は非常時に活用することができ、とてもありがたいと思っています。地域の方々にも、「何かの時には、学校に行けば安心だ」ということを伝えていきたいと思っています。

岩手県宮古市立刈谷小学校校長 千葉伸一さん



子どもたちが健やかに育つ地域力の再生を目指して

約30万人を対象に支援をお届けしました。

震災発生2日後に被災地へスタッフを派遣して以来、被災した方々の生命を守り、多くを失った子どもたちが将来への希望を抱いて健やかに成長できる地域力の再生を目指して、主に宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県宮古市で297,222人を対象に緊急復興支援をお届けしました。

- 子どもたちが安心して遊び、話ができるチャイルド・フレンドリー・スペースを7カ所実施 → P4
- 小・中・高校約90校に、学用品や学校備品を支援 → P4
- 南三陸町内のすべての小・中学校の全生徒と教職員約1,100人に、おかず給食を支援。合わせて、給食センターの再開を支援 → P4
- 南三陸町のジュニア・リーダーと一緒に取り組んだ「南三陸町まちづくりプロジェクト」で、町長に提案書を提出 → P6
- 南三陸町640人、気仙沼市478人の小・中学生を対象に、日本ユネスコ協会連盟と協働で奨学金を支給 → P6



子ども支援

気仙沼市で

- 漁業協同組合所有の超低温冷凍冷蔵庫の修復、製氷・貯氷工場の建設を一部支援 → P5
- 気仙沼産メカジキのブランド化に向けた取り組みを後押し → P6

南三陸町で

- 和船12隻、わかめ養殖再開のための資機材、テントなどを提供 → P5
- 新しい体験学習・産直施設を建設 → P6



雇用確保と生計向上



仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり



子どもを守るための防災支援

福島県で被災した方々に次の支援を行いました

- 福島県内での支援活動を行っている団体・教会を通して、衣料品、布団、紙オムツなどの生活用品を支援 → P4
- 新潟県柏崎市で暮らす福島県被災者の方々のため、柏崎市および地元NPOと連携しながら、見守り支援や交流イベントなどを実施 → P5

福島県被災者への支援

- 仮設住宅、みなし仮設住宅に入居する約14,000世帯に、100品目以上の生活用品を支援 → P4
- 仮設住宅で暮らす約24,600世帯に、「仮設のトリセツ」冊子版を配布
- 仮設住宅で入居者同士の交流を深め、自治会形成を促すためのイベントなどを開催 → P6

- 指定避難所・避難場所となっている気仙沼市内の小・中学校16校に、太陽光発電システム、井戸、防災倉庫を設置 → P5
- 気仙沼市内の5カ所に潮位・津波観測システムを設置し、防災ラジオ2,500台、津波浸水図30,000部、簡易津波標識100基を提供
- 宮古市内の小・中学校6校に太陽光発電システムを支援。また、同市内の避難所30カ所に防災倉庫、備蓄用の物資を整備 → P6

緊急期の支援 2011.3～6

2011

3

4

5

6

7



子ども支援

チャイルド・フレンドリー・スペースの運営

子どもが安心して遊び、話ができるチャイルド・フレンドリー・スペースを、校舎が全壊した南三陸町立戸倉小学校の子どもたちがいる避難所などで運営。仮移転先で学校再開後は校内に設け、先生と連携して子どもたちを見守りました。

約90校に、学用品や学校備品を支援

子どもたちが待ちに待った新学期を順調に迎え、学習を再開できるよう、岩手県と宮城県の小・中・高校約90校に、学用品や学校備品を支援。気仙沼市で4月19日、南三陸町では5月7日に新学期が始まりました。

おかず給食の支援

給食センターが流失した南三陸町のすべての小・中学校におかず給食を実施。また給食センターの再開も支援しました。

小・中学生1,118人に奨学金



雇用確保と生計向上



ワールド・ビジョン・ジャパンが提供した和船



収穫されたわかめ

和船12隻など宮城県漁業協同組合志津川支所への支援



仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり

約14,000世帯に、100品目以上の生活用品を支援

避難所へ水、毛布、紙オムツ、衛生キットなどを緊急支援。また岩手県と宮城県の仮設住宅／みなし仮設住宅に入居する約14,000世帯に、100品目以上の生活用品を届けました。

南三陸町4カ所でコミュニティ・キッチン支援

4カ所の避難所に、温かい食事がとれるようにコミュニティ・キッチン(食事が用意できる施設)を設置。避難所閉鎖まで使用されました。



子どもを守るための防災支援



学校に設置されたソーラーパネル



気仙沼市立面瀬小学校の子どもたちが、防災倉庫の壁に描いた壁画



福島県被災者への支援

団体・教会を通じ、福島県内被災者へ支援
福島県内での支援活動を行っている団体・教会を支援し、福島市、いわき市、伊達市、二本松市などの仮設住宅で生活されている方々に、衣料品、布団、紙オムツ、毛布などの生活用品を届けました。

復興期の支援 2011.7～

2011 7 8 9 10 11 12 2012 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12



子ども支援

- チャイルド・フレンドリー・スペースの運営
- 約90校に、学用品や学校備品を支援
- おかず給食の支援

学童の再開支援

南三陸町に代わって放課後児童クラブ(学童)を臨時運営。並行して新しい施設の建設を進め、2012年4月に再開しました。



小・中・高校に 体育用品の支援

南三陸町と気仙沼市の小・中・高校に、体育用品などを支援しました。



南三陸町まちづくり プロジェクト

南三陸町ボランティアサークルぶらこに参加する子どもたちとともに、復興に関するワークショップを開催。南三陸町と東京でイベントを行い、町長に提案書を提出しました。



小・中学生1,118人に奨学金

ユネスコ協会連盟と協働で、南三陸町640人、気仙沼市478人の小・中学生に、月々20,000円の奨学金を支給しています。2014年3月まで継続されます。



～2014.3



雇用確保と 生計向上

和船12隻など 宮城県漁業協同組合志津川支所への支援

共同使用の和船12隻のほか、わかめ養殖に必要な機材と加工所として使用するテントを支援。また南三陸町戸倉地区に、産直施設を併設した体験学習施設をオープンしました。



気仙沼漁業協同組合 超低温冷凍冷蔵庫の復旧支援

超低温冷凍冷蔵庫の一部修復を支援。水揚げした魚介類を保存・加工できるようになり、気仙沼市の水産加工業が、再び動き始める第一歩となりました。



気仙沼産 メカジキのブランド化を支援

気仙沼漁協とともに、経済復興の一環として、全国一の水揚げ量を誇るメカジキのブランド化に向けた取り組みを後押ししました。

気仙沼漁業協同組合 製氷・貯氷工場の建設支援

震災によって被災した、同組合の製氷・貯氷工場の建設を一部支援。製氷能力日産110トン、貯氷能力3,700トンと、東北最大級の規模として生まれ変わりました。



大槌町 新おおつち漁協への支援

すべてのサケ定置網を流失した新おおつち漁業協同組合に、サケ定置網1セットを支援。2012年冬には定置網漁が再開し、水揚げが行われています。



副読本支援(南三陸町)

地引網体験授業(南三陸町)



仮設住宅や その周辺地域での コミュニティづくり

- 約14,000世帯に、100品目以上の生活用品を支援

南三陸町 4カ所で コミュニティ・ キッチン支援

気仙沼市でコミュニティ・キッチン支援 気仙沼市の避難所1カ所に設置。ここで調理された食事は、周辺4カ所の避難所にも提供されました。

冬物家電支援

301戸に網戸設置など 気仙沼市で仮設住宅への支援

仮設住宅301戸に網戸を提供したほか、自治会やコミュニティの形成も支援しました。



商品券支援

南三陸町で仮設住宅への支援 図書館へ備品を提供したほか、仮設団地で交流イベントを開催するなどしてコミュニティ形成を支援しました。

宮古市で仮設住宅への支援

全仮設団地にベンチやテーブルを設置。鉾ヶ崎仮設集会所を建設。また親睦会などコミュニティ形成を支援しました。

2012.5～2013.7 NPO育成・強化 プロジェクト

2012.9 鉾ヶ崎仮設集会所オープン



子どもを守るための 防災支援



学校内に設置された、発電量を示すパネル

16校への太陽光発電システムなど 気仙沼市への防災支援

指定避難所である小・中学校16校に、太陽光発電システム、井戸、防災倉庫を設置するなど、防災機能の強化を支援しました。

47カ所に資機材提供 登米市への防災支援

47カ所の指定避難所に、倉庫、発電機、ガソリン携行管、コードリールなどの防災資機材を支援しました。

30カ所の物資備蓄など 宮古市への防災支援

避難所30カ所に防災倉庫、食糧、毛布、簡易組立トイレなどの物資備蓄を支援。また小・中学校6校に太陽光発電システムを設置しました。

2012.7 面瀬小学校による壁画作成

2012.7 完了式

2012.10 完了式

2012.11 完了式



福島県被災者への支援

- 教会を通じ、福島県内被災者へ支援

新潟県柏崎市での 被災者支援

布団・扇風機・乳幼児セットなどの物資を支援。浪江町児童・生徒交流ツアーや「ふるさと交流会」も開催。避難者の見守り支援と交流支援は2013年3月まで継続されます。



2011.10 浪江町児童・生徒交流ツアー

2011.11 ふるさと交流会

2012.3 ふるさと交流会



緊急期の支援



緊急支援物資 / 生活支援セットの配布



子ども支援



コミュニティ・キッチン支援

復興期の支援



子ども支援



雇用確保と生計向上



仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり



子どもを守るための防災支援



福島県被災者への支援

新潟県
福島県から避難している
方々を支援しています

柏崎市
1,791人

ともに活動した方々からのメッセージ



「生涯忘れない支援」

南三陸町は、過去に何度も大きな災害を経験しました。しかし、ここまで多くの支援団体による活動が行われたことはありませんでした。震災発生直後、色々な団体がやって来ましたが、その一つ一つがどのような団体なのか、復興の支援をお願いしてもよいのかを考えることすらできないほど、我々は打ちのめされていたと思います。今、「よくここまで来たな」というのが正直な気持ちです。

ワールド・ビジョン・ジャパンには南三陸町の子どもたちのために、漁業協同組合への支援や学校給食センターの再開、戸倉小学校でのチャイルド・フレンドリー・スペースなど、多くの支援をいただきました。震災後から、一緒に歩んで来たと思います。特に、ジュニア・リーダーの子どもたちとの活動は、彼らが能動的に活動できる環境を整えてもらったことで、子どもたちが自信を持ちました。子どもたちは、我々にとって復興に向けて同じ土俵に立つパートナーですから、彼らが自信をつけることは、我々にとってもありがたいことです。南三陸町の子どもたちは、ワールド・ビジョン・ジャパンの支援を、生涯忘れないと思います。 南三陸町長 佐藤仁さん(写真中央)



「同じ目線でいてくれました」

震災発生3カ月後の2011年6月に魚市場が再開し、気仙沼の人々にとっては希望となりました。しかし、希望だけでは生活していけません。気仙沼市の人々に夢と希望を与えるのは、魚市場を支える冷凍施設と製氷施設であると考え、1日も早い復興を目指してきました。(ワールド・ビジョン・ジャパンの支援を受けて)2012年2月に冷凍工場が復旧・稼働し、魚市場の水揚げのバックアップにつながりました。続く11月には製氷工場が完成し、復興にスピード感が増したと思います。例えば、氷によって魚の出荷が可能になり、出荷に必要な資機材、運送、といった関連する産業も動き出せます。魚市場の水揚げから発進して、気仙沼市のすべての歯車が動き出す、その中心にこれらの施設があるのではないかと思います。

我々は「被災者」ですが、被災者扱いされるとやはり遠慮してしまっ、言いたいことも言えなくなってしまいます。しかしワールド・ビジョン・ジャパンは、我々を被災者扱いせず、同じ目線でいてくれたので、言いたいことを全部言えました。そして、それを受け止めてもらいました。とても感謝しています。 気仙沼漁業協同組合 魚市場部長兼製氷冷凍部長 熊谷浩幸さん(写真左)

それぞれの地域で、以下の団体を始めとする
多くの方々にご協力を得て、支援をお届けしました。
心から感謝申し上げます。

- 宮城県**
- 宮城県教育委員会
 - 気仙沼漁業協同組合
 - 気仙沼市震災復興・企画部震災復興・まちづくり推進課
 - 気仙沼市社会福祉協議会
 - 気仙沼市総務部危機管理課
 - 南三陸町
 - 南三陸町教育委員会
 - 南三陸町社会福祉協議会
 - 宮城県漁業協同組合
 - 宮城県漁業協同組合 歌津支所
 - 宮城県漁業協同組合 志津川支所
 - 宮城県漁業協同組合 戸倉出張所

- 岩手県**
- 宮古市危機管理課
 - 宮古市教育委員会
 - 宮古市社会福祉協議会
 - 新おおつち漁業協同組合

- 新潟県**
- 柏崎市市民生活部東日本大震災被災者支援室
 - 特定非営利活動法人地域活動サポートセンター柏崎
 - 柏崎市社会福祉協議会
 - 柏崎市教育委員会

- その他**
- 社団法人マリノフォーラム21

協力企業一覧 一部・敬称略、五十音順

■ 東日本大震災緊急復興支援募金へのご支援

- MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社、株式会社スタートトゥデイ、孫正義氏、株式会社タイセイ、玉の肌石鯨株式会社、株式会社ディメンションデータジャパン、東京海上日動火災保険株式会社、日産自動車株式会社、一般社団法人日本食品機械工業会、P&Gジャパン株式会社、株式会社不二家、任意団体ベネッセ募金口、株式会社ホテルグランバシフィック、三菱商事株式会社、山崎製パン株式会社

■ 物品寄付によるご協力

- 株式会社味千汐路、イケア・ジャパン株式会社、花王株式会社、株式会社コロニアスポーツウェアジャパン、主富服装股份有限公司、住友化学株式会社、玉の肌石鯨株式会社、株式会社チュチュアンナ、日産自動車株式会社、日清紡ホールディングス株式会社、日本アムウェイ合同会社、阪神酒販株式会社、P&Gジャパン株式会社、富士フィルムホールディングス株式会社、和光堂株式会社

■ 東日本大震災緊急復興支援での協働

- イオンリテール株式会社、株式会社イトーヨーカ堂、EVERGREEN GROUP、株式会社コジマ、株式会社住友倉庫、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、ソーラーフロンティア株式会社、株式会社ダイエー、西川産業株式会社、株式会社ヤマザキ物流、ヤマザキグループ、株式会社良品計画(無印良品)



奔走し続けた2年間

未曾有の大震災で日本中が不安と混乱にある中、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の支援は被災地に飛んで行ったスタッフからかかってきた、「水と毛布!すぐ送って!」という1本の電話で始まりました。「支援したい」という声から世界中のワールド・ビジョン事務所から続々と上がり、WVJの事務所はあっという間に緊急支援の最前線へと変わりました。

そんな私たちが直面したのは、日本国内で今回のように大規模な支援活動を行ったことはないWVJにとって、すべてが初めてのことばかりという現実でした。現地事務所を開くのも、広範囲にわたる地方自治体関係者と調整・連携しながら支援活動をするのも初めてでした。途上国ではよく耳にする「ワールド・ビジョン」という名前も、日本ではほとんど知られていません。支援させていただきたくても、復興のパートナーとして信用していただくまでには当然時間がかかります。世界中から集まった支援や励ましを、とにかく早く、被災された方々にお届けしたい。災害支援のプロの端くれとして、復興に役立つ効果的な支援をしなければと焦る中、思うようなスタートダッシュが切れずもどかしい日々が続きました。

それでも、眠る間もなく忙しくしておられる自治体や漁業関係者の方々に何かお時間をいただいてお話しするうちに、「それなら…」とポツポツと支援のお話が出てくるようになり、一つひとつ応えていくうちに、「今はこういうニーズがある」「復興にはこれが必要と考えているが、WVJはどう思うか」といった、中長期の復興を見据えたご相談を受けるようになりました。



私たちは総力をあげて取り組みました。途上国での災害支援で得た経験や知見が活かされたもの(子ども支援)、中立的なNGOの立場だからこそできたもの(漁業支援)、資金や組織力があって実現したもの(防災支援)など、持ち得るすべての資源を投入して、スタッフが日々奔走しました。他方、日本での活動に慣れておらず、壁にぶつかることも数多くありました。そんな時、「こうしたら良い」とアドバイスを下され、「こうしよう」と励まして下さったのは、いつも自治体や学校、漁業関係者、そして被災された方々ご自身でした。現地状況に精通した的確な助言や、厳しい環境にあっても前を向いて復興に取り組む皆さんの姿に、支援に行ったら私たちがどれだけ助けられ、励まされたか分かりません。

2013年1月からは、一関事務所から東京に拠点を戻し、子ども支援を中心に活動

継続していきます。これまで東北の地で、元気と笑顔で大人たちを励ましてくれた子どもたちのパワーを、その声に乗せて届け、一緒に被災地と日本の復興を後押ししていきたいと願っています。これまでご支援くださった皆さま、東北で支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。



東日本大震災緊急復興支援部 部長 木内 真理子

支援の方針と今後の予定

ワールド・ビジョン・ジャパンは東日本大震災の復興支援にあたって、子どもたちをはじめ、これからの復興を担う地域の方々自身による取り組みが力をつけていくように後押しし、

被災地の将来的な自立につながる支援を目指して、活動してきました。直接的な支援活動は2012年12月をもって終了しましたが、地元NPOの育成支援(2013年7月末まで)と、南三陸町と気仙沼市の子どもたちへの奨学金支援(2014年3月末ま

で)を継続し、支援の成果が定着、発展するように活動状況を見守ります。3年間にわたる東日本大震災緊急復興支援によって得られた貴重な経験は、2014年4月以降に開始予定の日本の子どもたちへの支援につなげ、活かしていく予定です。

東日本大震災緊急復興支援事業 開始からの正味財産増減の状況

2011年3月15日より2012年12月31日まで(単位:千円)

I 一般正味財産増減

経常利益	
1 受取寄付金	4,420,444
受取その他募金・寄付金(日本国内より)	1,168,238
日本国内の募金・寄付金	1,057,148
日本国内の物品による寄付	111,090
受取その他募金・寄付金(海外より)	3,252,206
WVパートナーシップ事務所を通じての募金	3,232,383
WVパートナーシップ事務所を通じての物品による寄付	19,823
2 受取補助金等	117,677
民間団体からの受取助成金	117,677
3 雑収益	61,816
4 一般会計からの繰入金収入	10,781
経常収益合計(A)	4,610,718

経常費用	
1 事業費	3,937,336
地域開発援助事業費	3,881,779
地域開発援助事業費	3,664,210
子ども支援	912,579
防災対策支援	365,063
雇用・生計向上支援	509,768
コミュニティ支援 ^(注)	1,605,920
福島県被災者支援	68,033
一関事務所運営管理費等	202,847
地域開発援助事業管理費	217,569
啓発教育費	55,557
各種啓発教育費	35,409
啓発教育事業管理費	20,148
2 管理費	5,906
3 一般会計への繰入金支出	15,764
経常費用合計(B)	3,959,006

経常外費用	
1 固定資産売却損・除却損	5,309
経常外費用合計(C)	5,309

当期一般正味財産増減額(A)-(B+C)	646,403
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高(D)	646,403

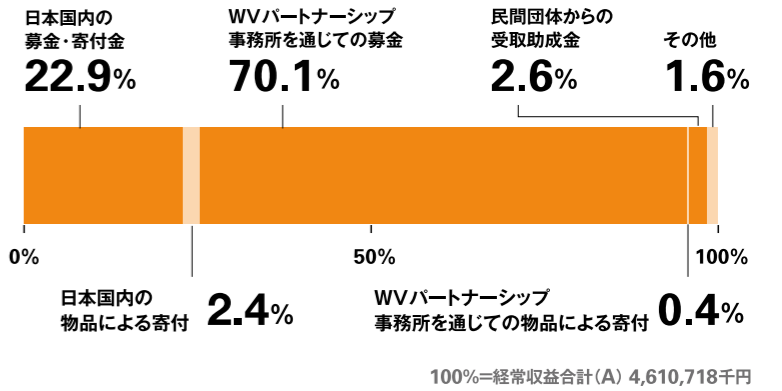
II 指定正味財産増減	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高(E)	0

III 正味財産期末残高	
正味財産期末残高(D)+(E)	646,403

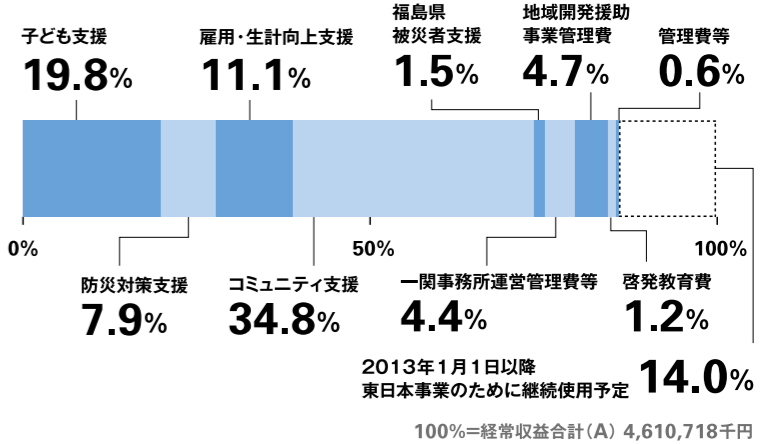
※コミュニティ支援には、物資支援、コミュニティ・キッチン支援を含みます。

●12カ月活動レポートで「物資支援、コミュニティ・キッチン支援」として計上した内容は、「コミュニティ支援」として一本化しています。

経常収益



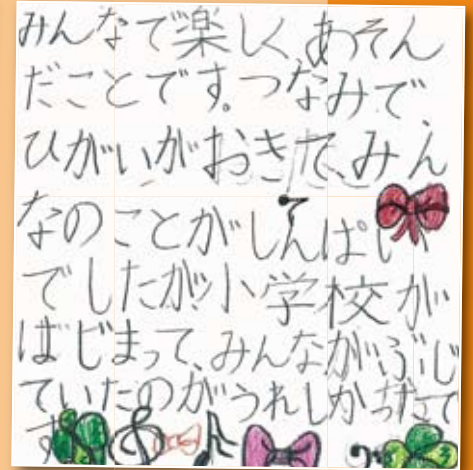
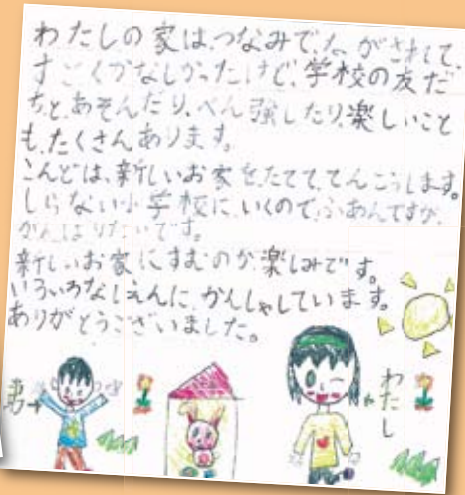
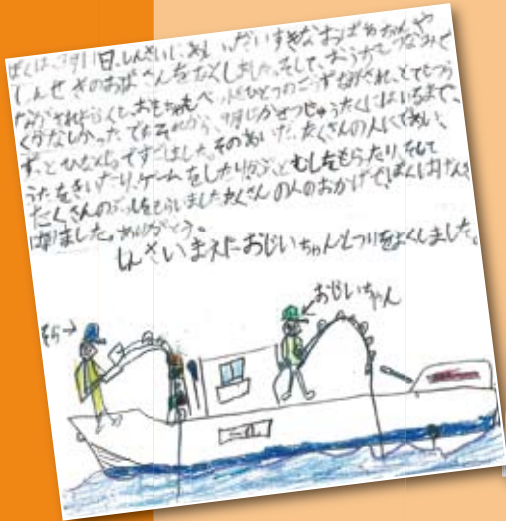
経常費用



ワールド・ビジョン・パートナーシップ事務所を通じての募金内訳(物品含む:米ドル)

台湾(物品を含む).....\$16,326,327	タイ.....\$312,000
香港.....\$7,500,000	マレーシア.....\$260,000
アメリカ(物品を含む).....\$5,014,203	オランダ.....\$133,000
カナダ.....\$2,824,133	オーストリア.....\$110,000
ドイツ.....\$2,450,228	インドネシア.....\$37,300
韓国.....\$1,950,507	インド.....\$31,000
スイス.....\$1,700,000	フィリピン.....\$20,000
オーストラリア.....\$1,500,706	アイルランド.....\$8,871
シンガポール.....\$730,000	カンボジア.....\$2,843
イギリス.....\$500,000	イタリア.....\$900
ニュージーランド.....\$329,036	

ワールド・ビジョン・ジャパンは、日本ユネスコ協会連盟と協働で
 南三陸町と気仙沼市の小・中学生1,118人に奨学金を支給しています。
 奨学生の子どもたちから、メッセージが届きました。



特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 東日本大震災緊急復興支援24ヵ月活動レポート

2013年3月発行
 発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
 〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー 3F
 TEL: 03-5334-5350 (代表) FAX: 03-5334-5359
 ホームページ <http://www.worldvision.jp/> 郵便振替 00130-6-254059

当団体は「認定NPO法人」です。皆さまからのご寄付は寄付金控除の対象となり、税制優遇措置を受けられます。

本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。

